

ずいそう



再びインドにて

石見博之



32年ぶりに再びインドで仕事をする事になり1年余りたったころ、ふと訪れた旅先で歩いていると一人の少女が近寄ってきた。黒い瞳がきらきらして“My photo please!”という。僕はとまどいながらもその笑顔をファインダーに収めシャッターを切る。彼女はモニターを覗き込み、自分の姿がそこにあるのを見ると、嬉しそうに“Thank you!”と走り去って行った。傍らで母親がにこやかに見ていた。

僕にとって初めての外国インドに来た当時は社会主義経済時代で、仕事の相手は国営企業。お役人がたびたび登場した。通信・交通の整備は遅れていて、日本へ電話するときは1日以上待った。車は殆どが国産車で、モデルチェンジのたびに品質が悪くなるとインド人自身が自虐的に言う如く、故障は日常事。映画は、愛、アクション、笑い、涙、そして踊りというすべての要素が3時間の映像に詰め込まれた大衆娯楽の王であった。大人も子供も屈託なく人懐こく写真好きだった。何をするにも時間と忍耐が求められたが、人々の時間はガンジスのようにゆったりと流れていた。

今ここで目にするのは、購買力を持った中産階級の勃興とそれに伴う街の変化。外資導入に伴い広い分野でビジネスが成長し、人々はその恩恵を手に入れている。その代表格が、羨望と軽い嫉妬をこめてスーパーホワイトカラーと呼ばれる先進国並みの消費生活を楽しむトップIT技術者たち、そして外資系や国内一流企業のホワイトカラーとそれを支える人々。そこに手ごろな価格の乗用車の登場でモータリゼーションが爆発。追うようにハイウェイが伸び、あちこちで巨大なショッピングモールや住居用の高層ビルの建設が進む。通りには地元料理店の隣に西洋式のカフェやレストラン、高級店街には欧米の有名ブランドが並び、美しいサリーなどに交じってジーンズやスカート姿の若者や家族連れが歩き回る。12億超の人口から輩出される有能な人々が世界を舞台に、ITのみならず、企業経営、芸術、学問など多分野で活躍する。そのパワーを活用するべく千人単位のオフィスをいわゆるITキャンパスに構える欧米企業。どこかの一党独裁国と異なり「民主主義」による合意形成のために離陸に手間取っていた経済も今年は8%成長を見込むという。

一方、社会制度やインフラ整備が追いつかず、空は排気ガス、地はプラスチックごみにまみれ、道路は大小様々の2輪、3輪、4輪が警笛を鳴らしてひしめき、時に人と牛と羊たちが参入する。英植民地時代に敷設された鉄道は今や世界遺産級に老朽化。新首相は経済

活性化と共に“Clean India”を唱えているが、夢の実現はいつのことか。建機の現場を見ると、先進国並みに安全管理された鉱山もあれば、ゴム草履にハンドドリルで石割りをする採石場もある。そんな多様な現場を見回っている間にも、我々の想定外の使い方や整備が行われ、果ては不可解な不具合が発生する。

身の周りは、気候環境、習慣の違いはもとより、規律や清潔という面では日本の対極にあるような社会。欧米企業の如く人材の果実を得ようとするも、我々モノカルチャー人種は多様な価値観に手こずる。邦人のインドへの第一関門の食と言えば、普通にあるのはインド食が中心。スパイスの芸術と讃えられるその美味を舌で理解はするが、これが数日続くと内臓はモウアカンと言いつつ。

かくして心身が疲労限に近づくと、週末は気晴らしに旅行に出かけてみるが、実はそこもインド世界。かつて旺盛だった好奇心も寄る年波には勝てず…ツカレル。その時に会ったのが冒頭の少女である。無垢な笑顔に再会したような和やかな気持ちになり「ええ日や」と呟いた。

休日明け、元気を回復して相も変らぬ喧騒の日常に戻る。今インド建機業界では規制・規格の制定作業が進行中で、建機工業会の技術委員会が頻繁に開催され、国際規格などを元にインドの実情を考慮しながら検討が行われている。政府は建機現場の安全性改善のために、欧米が長年かけて築いてきたレベルに一刻も早く追いつこうと野心的な目標を設定し、それに対して国産メーカ、外資メーカ双方が、市場や個々の実情を語り、侃々諤々の議論が続く。時に、全建機一律に車体から15m地点で85dBという驚くべき騒音規制案が出たりする。ある程度の技術知識があれば大型機には問題と察知できようが、その気配もない。油断していると高シェアを握るメーカのエゴが顔を出す。そろりと口をはさむ。自分の立ち位置を見極め、世界の規制・規格の状況、インドの実情を考え併せ、時には本社やISOの支援も得て妥当な方向に誘導を試みる。インドのガラパゴス規格ができぬように。

いい日も悪い日もあるが、ここはインド、人様の土地と肝に銘じ、多様と混沌の中を辛抱強い心と柔軟な頭で一步一步進んでいくしかない。古から変わらぬ大地と人々とその歴史に、そして変わりゆくものに敬意を払いつつ。インドの一日は暑く長い。